



## 滋賀県道路整備アクションプログラムの見直しに向けた地域ワーキングを開催

このたび滋賀県では、平成30年3月に公表した『滋賀県道路整備アクションプログラム2018』の見直しを実施することになりました。大津土木事務所では、11月18日に第3回大津地域ワーキングを開催しました。

### 第3回地域ワーキング開催概要

【日時】 令和4年11月18日（金）  
14:00～16:00

【場所】 滋賀県危機管理センター 1階 大会議室

#### ▶ 地域ワーキングの目的

大津土木事務所管内の地域課題を抽出し、その課題を踏まえた今後の道路整備について、色々な立場の方から意見をいただくことを目的とする。



### アクションプログラム策定スケジュール

第1回  
ワーキング

5年間を振り返り、地域の道路、交通の問題点や課題等についてご意見をいただきました。

第2回  
ワーキング

第1回WGでいただいた意見に基づき、「地域の声(案)」「地域の重点項目(案)」を作成、提示し、意見をいただきました。

第3回  
ワーキング

「地域の声」「地域の重点項目」の報告、個別路線の代表候補箇所を提示し、意見をいただきました。

今回

第4回  
ワーキング

アクションプログラム2023(案)を提示し内容について意見をいただきます。

アクションプログラム2023策定  
(令和5年3月予定)

## 「地域の声」「地域の重点項目」の提示内容

### 1 幹線道路と生活道路の機能分化

市街地では、幹線道路の渋滞や信号を避けるために生活道路への抜け道利用が発生しています。生活道路では、歩道が十分に整備されていないこともあり、通勤通学・買い物といった日常移動の安全が脅かされています。

今後の道路整備にあたっては、経済活動を支え災害にも強い「幹線道路」と、安全・安心・快適な生活環境をつくる「生活道路」それぞれの機能に合った道路整備を行う必要があります。

併せて、ICT等の新技術の活用や標識の設置、交通規制や意識啓発など、関係機関と連携しながら様々な方法で生活道路への抜け道利用を抑制する必要があります。

### 2 歩行者や自転車の安全・安心につながる道路整備

生活道路においては、これまでの車中心の道路から、公共交通や自転車利用、歩行者など「人中心」の道路空間へシフトチェンジする必要があります。

特に、高齢化が進む地域や駅・病院などの周辺では、シルバーカーや車いす利用も想定したユニバーサルデザインの視点が必要です。

ピワイチルートにおいては、自動車・自転車の双方が安全に走行できる空間整備が必要です。

### 3 災害や緊急時に強い道路整備

災害や緊急時に幹線道路が通行不能となり大きな迂回が必要となれば、救命活動に大きく影響します。そのため、幹線道路の機能向上と併せ、代替機能をもつ道路整備によるダブルネットワーク化が必要です。

### 4 今後の道路の使い方を考える新たなチャレンジ

新たな道路整備には多くの予算と時間を要することから、既存の道路空間の使い方を工夫することで課題解決ができないか試行錯誤する必要があります。

ICT等の新技術の活用や社会実験の実施など、新たなチャレンジを実施する必要があります。

## ワーキングでいただいた主なご意見

### ▶「地域の声」・「地域の重点項目」事務局(案)へのご意見

「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
<b>・幹線道路と生活機能の分化</b>	<b>・主要幹線道路の著しい渋滞を緩和する道路整備</b>

- ・バスは地域の足として生活道路やそれに近い道路を走行している。幹線道路が混雑すると自動車交通が生活道路へ迂回する。生活道路は歩道が整備されていない路線が多く、機能分化は重要。
- ・ゾーン30指定により事故が減少するといいい。
- ・(生活道内の安全対策として)ハンプの設置は非常によい。
- ・離合困難な狭隘道路は一方通行化すればスムーズに走行できる。
- ・生活道路への時間流入規制は標識が設置されていても守られない。ライジングボラード設置はとてもよい対策。
- ・山手幹線が整備されることで瀬田地域の渋滞が懸念される。渋滞対策が重要だと思う。
- ・渋滞の緩和については、警察では信号周期を変えて渋滞緩和を少しずつ、地域を選定しながら進めている。

「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
<b>・歩行者や自転車の安全・安心につながる道路整備</b>	<b>・居住誘導区域内における歩道整備</b>

- ・「ピワイチルートにおいては・・・」の文章が唐突に感じる。何か言葉を付け加えられないか。
- ・ピワイチは上級コースは車道だが、低速コースは歩道の箇所もある。「自動車・自転車の双方が・・・」とあるが、歩行者は入れなくてよいか。
- ・ハード対策を求める声があるが、ソフト対策も含めて、皆で検討できるような機会が持てると良い。
- ・ソフト対策でハンプや狭窄等の事例があったが、設置する場所が限られる。住宅のハンプ設置は振動が課題であったり、狭窄は家の出入り口付近で嫌がられることも。設置箇所が悩ましい問題がある。
- ・歩道整備を進めての賑わいづくりができればよい。
- ・ハンプ、ボラードで効果はあると思うが、効果がある反面、事故が起こりやすくなったり、転倒による怪我、電動車いすが通れなくなったりの負の面もある。
- ・「居住誘導区域内」と書いてしまうとそれ以外のところは整備してもらえないのかという心配がある。文言を少し考えてもらいたい。



「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
<b>・災害や緊急時に強い道路整備</b>	<b>・災害や緊急時に強い道路ネットワークの整備</b>

- ・「幹線道路の機能向上と併せ～」とあるが、幹線道路の機能向上とは何か。一般の人は分からない。
- ・文章の主語が不明確。主語・述語を明確にしてはどうか。
- ・事故をどこまで含めるか。大きな火災でも通行止めになる場合もある。「等」を入れておいた方がよい。
- ・(救助活動と救命活動が混在しているという事務局の話を受けて)救助には救命も含まれるので、「救助活動」の方が範囲は広いのではないか。

「地域の声」(案)	「地域の重点項目」(案)
<b>・今後の道路の使い方を考える新たなチャレンジ</b>	—

- ・「既存の道路空間の使い方を～」とあるが、“の”が続くのが気になる。「既存道路空間の使い方」にしてはどうか。同じく2段落目も「ICT等の新技術の活用」と“の”が続いている。

### ◆ ◆ ◆ 地域ワーキング委員(敬称略、五十音順) ◆ ◆ ◆

青山 知子 [大津交通安全協会 女性部長]	須山 進 [大津商工会議所 観光運輸部会]
大森 睦浩 [大津北警察署交通課 課長] (欠席)	高岡 裕子 [大津警察署交通第一課 課長]
(國分 章 [大津北警察署交通課 警部補] (代理出席))	竹平 陽 [公募委員] (欠席)
小川 圭一 [立命館大学理工学部 教授] (座長)	西 耕一郎 [公募委員]
鬼塚 泰二 [大津市建設部道路建設課 課長]	野村 義明 [社団法人滋賀県バス協会 専務理事]
後藤 佳子 [大津市地域女性連合会 副会長]	丸山 忠司 [社会福祉法人大津市社会福祉協議会 事務局次長] (欠席)
佐藤 祐子 [公益社団法人びわこビジターズ ビューロー 副会長] (欠席)	横田久美子 [大津市教育委員会児童生徒支援課 主幹]

滋賀県道路整備アクションプログラム 地域別アクションプログラム 大津地域ワーキング  
 ~大津地域ワーキングニュース~ 2022年12月発行

【編集・発行】滋賀県大津土木事務所道路計画課

〒520-0807 滋賀県大津市松本1丁目2-1 TEL:077-524-2820 FAX:077-525-9352

E-mail: ha30100@pref.shiga.lg.jp URL: <https://www.pref.shiga.lg.jp/ippan/kendoseibi/douro/328552.html>

議事録URL  
はこちら

